

古道を訪ねて ②③

巡礼道

(勝尾寺・中山寺) ⑤

「左ハ中山」と刻まれた道標から、如意谷の旧集落の中を西へ約200m進み、鍋田川の支流にかかる橋を渡ると、右側に庚申を祀った「青面金剛」の石塔と、地藏立像を含めた十数体の石仏群があります。



▲石仏群

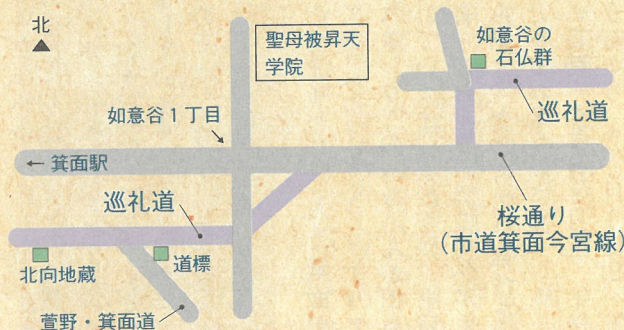
青面金剛の石塔は銘により、明治20(1887)年の建立であることが分かりますが、地藏立像のほうは台座に刻まれた文字が摩耗して判読することができません。巡礼道はここから川

沿いに南に下り、通称「桜通り」と呼ばれる路線バスが走る道と合流して西へ進み、「第二中学校口」のバス停付近で桜通りから左へ分かれます。約250mほど進むと、巡礼道は南東のほうから向かってくる道と合流しますが、ここに道標があります。



▲道標

この道は西国街道を東から西へ向かって進んできた旅人が、萱野から箕面寺(現瀧安寺)へ参拝する際の近道で、通称「萱野・箕面道」と呼ばれる古道です。この道標の北西の面に刻まれた「すぐ京道」にしたがってまっすぐに進んで行くと、萱野小学校東側で西国街道と合流して京(京都)へ、南東の面の「すぐみのを道」にしたがいまっすぐにいくと箕面寺へ行くことができます。道標の裏面には「願主 京中本氏」と寄進者の名前がありますが、建てられた年月がありません。しかし、萱野地区の「西国街道」と「萱野・箕面道」の分岐点に建てられ



▲北向地藏横の石仏

ていた道標(現在大阪北部農協萱野支店の東側に移転)に、天保11(1840)年の年号と中本氏の名前がありますので、この道標もこのころに建てられたものと推測されます。さらに西に進むと左手に平尾の北向地藏がありますが、くわしくは、次号でご案内します。